

京林大だより No.5



絵：京林大生 熊走君

旧和知第二小学校のイチョウ 京林大で樹勢回復実習

京林大では森林保護の講義の一環として、12月14日、旧和知第二小学校（京丹波町篠原）のイチョウの木の樹勢回復実習を行いました。イチョウは樹齢100年以上、高さが約20メートルの巨木で、この小学校のシンボルでしたが、近年は枯れ枝や落葉など、衰弱が目立っていました。

学生たちは資材準備班と土壌改良班に分かれ、樹木医の指導のもと、エアスコップや土壌改良剤、菌根菌の接種などの最新の樹木治療法を処置を行いました。はじめは作業に夢中になるあまり、土壌改良をした場所を踏みつけたりしていた学生たち。しかし、作業が終わるころには「踏むなよ!」と声をかけあうなど、樹木に対する意識が急速に高まった様子に、指導にあたった講師も驚きを隠せません。

林大生たちは、一本の木を治療することを通して、木を愛しむ心を学んだようでした。



施業終了後、旧和知第二小学校前にて記念撮影



**京林大生の
下宿情報 募集中!**

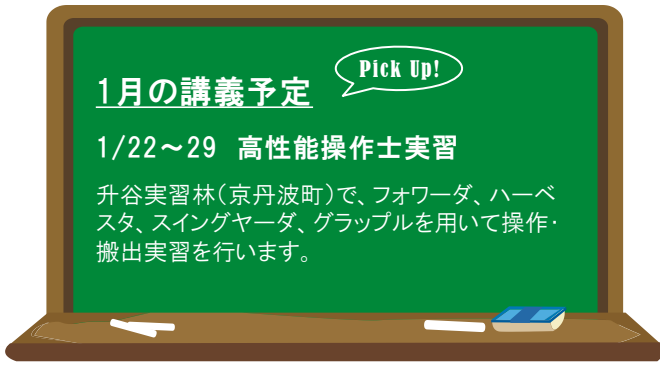
平成25年4月以降に入学する京林大生の住まい情報を探しています。

空き家、空き離れなど、林大生の住まいとして利用させていただける住居の情報がありましたら、ぜひお寄せください。

お問い合わせ窓口

京都府立林業大学校 TEL 0771-84-2401

京丹波町役場和知支所 TEL 0771-84-0200



京林大入試情報

後期一般入試を下記のとおり行います。
出願方法については、本校ホームページをご覧ください。本校までお問い合わせください。

出願期間	1月25日(金)~2月15日(金)
試験日	2月22日(金)
試験科目	現代文、小論文、面接
合格発表	3月1日(金)

なお、推薦入試・前期一般入試は無事終了し、十数名の入学が内定しています。春からも、学生ともども京林大をよろしくお願い申し上げます。



校長室より

日本のマツの葉はニホン？

お正月は門松。地域によって、その飾り方様々、タケ、ナンテンなど一緒に添え飾るものもいろいろ、でも門松というくらいだから、その主役はマツ、雄松(クロマツ)と雌松(アカマツ)。マツは冬も緑の常磐でめでたい樹木、そしてその葉は2本で、仲良しの象徴、枝に在る時のみならず、「枯れて落ちても二人連れ」。日本では「松葉は二本」が常識です。それは日本のマツの代表がアカマツ、クロマツで、わが国ではマツといえば普通このどちらかを指し、またとくに区別されないことも多いからです。でも、高山に生育するハイマツ、これの葉は5本で一組み。その他にも、わが国産のマツで5葉のものが、ヒメコマツ、ゴヨウマツ、チョウセンゴヨウなど何種類

京林大のヒミツ

— 海外からも千客万来 —



林業の担い手を育てるためにどのような教育をしているのだろう——昨年開校したばかりの京林大には多くの関心が寄せられ、北海道から九州まで全国からたくさんの方が、京丹波町にある京林大へ視察に来られました。

しかし、京林大に興味を持たれたのは国内の方にとどまりません。驚くことに、国外からもたくさんの方が京林大へ来校されているのです。昨年6月の韓国からの視察団を皮切りに、10月には京丹波町の交換留学生としてニュージーランドの学生さんを、11月にはインド、12月にはオーストリアと東ティモールの方々をお迎えしました。

海外の様々な国・地域で林業に励んでいる人達の存在を知り、大いに刺激を受けた京林大生。スケールの大きな林業人を目指し、今日も学業に励んでいます。



もあります。

といえば気が付くでしょう。庭園や生け花に良く使われる葉のうんと長いダイオウショウ(大王松)は3葉でした。世界には、ポンデローサ、テダ、カリビヤなどの3葉のもの、センブラ、ストロープ、モンチコラなど5葉の種も多く分布しています。4葉、7葉、8葉のもの、まれには1葉、9葉のマツもあるとか。

世界には、2葉のマツは沢山ありますが、わが国では、マツは2葉が常識定着。で、二股かんざしの簪を松葉簪と言ひ、二葉の形を模した松葉杖なんて道具も。ちなみに中国語では松葉杖を「拐杖」と言うとか。どこかへ連れて行かれそうなカンジ。

(校長 只木良也)